

ハワイ日系仏教寺院の新出資料・文化財に関する調査報告

2020～2023 年オアフ島

◎ 笹岡直美（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター）
安中尚史（立正大学）・守屋友江（南山宗教文化研究所）
石井清純（駒澤大学）・中原ゆかり（愛媛大学）
平井智親（安国論寺）・南原一貴（曹洞宗総合研究センター）

1. はじめに

本研究では、近代日本が行った海外進出に伴い、海外で布教活動を展開した日本仏教の動向を考察するため、その重要拠点であったハワイの日本仏教寺院に遺る文献資料や文化財に焦点をあて、先行研究が全く対象としなかった資料が大量に保管されていることを明らかにした。文献資料のほか、多くのモノ資料（文化財を含む）が所蔵されるが、そのほとんどが、経年劣化・シロアリ・カビなどによる破損に適切な対応ができず、やむを得ず現状の維持もしくは安易な修理、さらに破棄されていた。また日系人信徒の多くが日本語を母国語としない世代であり、さらに檀信徒の多民族化によって、こうした文献資料・文化財に残る日本語の情報を正確に理解できず、取り扱いに困窮していた。本発表では、2020～2023 年に実施したハワイ・オアフ島調査の報告と、新出資料と文化財を活用した新たな資料体系の構築によって、これまで明らかにできなかった仏教史研究についての展望を示す。

2. 2020～2023 年オアフ島調査概要

本研究は、文部科学省科学研究費・基盤研究B・20H01190「ハワイ日系仏教寺院所蔵の新出資料・文化財による領域横断的な仏教史研究」（研究代表・安中尚史）によるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020～2021 年の現地調査を延期せざるをえなかった。その後、出入国規制の緩和により 2022 年 8 月 24 日～29 日・2023 年 1 月 25 日～28 日の 2 回でアメリカ合衆国ハワイ州オアフ島内の 8 カ所について調査等を実施した。

◇調査・訪問場所一覧

曹洞宗両大本山ハワイ別院正法寺	曹洞宗アイエア太平寺	曹洞宗ワイパフ大陽寺
曹洞宗ワヒアワ龍仙寺	本派本願寺ハワイ別院	東本願寺ハワイ別院
ハワイ日蓮宗別院	ハワイ大学ハミルトン図書館	

◇調査資料概要

仏像 35 体 日誌 12 冊 会議録 5 冊 写真約 360 枚 カード 233 枚 その他資料 23 点

3. 調査報告

2022 年 8 月・2023 年 1 月の調査結果の中から、新出資料等を報告する。

3-1. 曹洞宗両大本山ハワイ別院正法寺

ハワイにおける曹洞宗の拠点寺院で、曹洞宗ハワイ国際布教総監部が設置されている。

◇西国三十三観音像

本堂に安置される仏像群（各総高約 50～60cm 程度/木造）で、各像の台座背面に銘文（陰刻）を確認した。銘文には奉納者名とともに、奉納者の出身地とハワイでの居住地をあらわす。奉納者はオアフ島に在住する日



▲曹洞宗両大本山ハワイ別院正法寺

本人移民で、仏像は名古屋の仏具店が1926年に制作したことがわかる。

銘文から、曹洞宗の信仰を持つ日本人移民の居住地が明らかになった。これまでも、ハワイにおける都道府県別出身地に関する資料は存在しているものの、そのような紙資料をさらに裏づける資料として本調査で発見となった。

◇写真資料

総監が所蔵する戦前戦後の写真資料群で約360枚を調査した。写真の内容は曹洞宗に関連するものだけでなく、各宗派の活動を知ることができるものや、日本人移民の歴史一般を示すものまで多岐にわたっている。中には、ハワイにおける日本仏教各宗派の交流を垣間見る写真が含まれ、既存の研究を補強する資料群といえる。

3-2. 本派本願寺ハワイ別院

浄土真宗本願寺派のハワイにおける拠点寺院。

◇本派本願寺ハワイ別院日誌・議事録

1899～1953年の期間に記された日誌や会議録等17冊を調査した。僧侶の活動や在家信徒らとハワイに適応した布教方針を議論した内容が記されている。これらは移民第一世代に関する新発見資料である。

◇児童向けカード・「校友会誌」

1940年代後半に児童向けに作成された多色刷りのカード233枚と、寺院付属学校の同窓会が発行する「校友会誌」を調査した。現地生まれの二世に関する資料として新たに見いだした。



3-3. その他

◇太鼓

各寺院に確認できる太鼓はハワイにおける日本仏教寺院の文化を理解する上で重要な仏具である。ハワイ日蓮宗別院・曹洞宗ワイパフ大陽寺の太鼓は導入背景を示す銘文を確認した。

◇環境調査

曹洞宗ワイパフ大陽寺の協力を得て、2022年8月26日から本堂の3か所にインセクトトラップ（イカリ消毒株式会社・紙製）と2か所に温湿度データロガーを設置し、寺院の環境調査を継続している。

4. おわりに

従来の海外仏教史研究において、研究対象としてきたのは文献資料や関係者からのオーラルヒストリーが主であった。本研究では、先行研究では全く着目されてこなかった仏像・仏具といったモノ資料としての文化財に記される情報を見出し、新出資料と合わせた資料の体系化を試み、ハワイ日系社会の中で展開した日本仏教の動向を宗派の枠を超えて実証的に評価することを目標としている。

先行研究において、文化財を調査や研究の対象として考察された前例がないものの、多くの仏像や仏具には制作や奉納の経緯が記され、従来の研究対象である文献資料と遜色ない情報を有していることを本調査で明らかにした。

また本研究で配慮する点は、研究を目的とした調査実施だけに留まらず、各寺院の文化財・資料の目録化や整理、保管環境の改善提案と実施を伴うことにある。文化財と資料の状態確認、それを所蔵者・関係者と共有することで、存在を強く認識してもらう機会となり、将来への継承や保存の担保になることを希望している。特にハワイでは、文化財や資料に記される日本語を理解する関係者は少なくなっており、外部からの働きかけによる文化財や資料の重要性の認知は意義深い。

今後、ハワイ島への調査や日本国内で新発見の開教師資料への調査を実施し、これらの成果について公開と共有を目指し、ハワイ日系人社会における仏教の位置づけに新たな見地を加える。